

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 8 施設連携展示
「わがまち横浜再発見 ヨコハマ 3 万年の交流」



縄文時代最盛期のころ 横浜市都筑区前高山遺跡・大熊仲町遺跡ほか出土
縄文時代中期 約 5000 年～4500 年前

(公財) 横浜市ふるさと歴史財団は、横浜市歴史博物館のほか、埋蔵文化財センター・横浜市三殿台考古館・横浜市八聖殿郷土資料館・横浜開港資料館・横浜都市発展記念館・横浜市史資料室・横浜ユーラシア文化館の計 8 施設を運営する団体です。

横浜の原始から現代までの 3 万年の歴史を明らかにし、市民にその成果を公開する活動を 8 施設が一体となっておこなっています。

本展示では、各時代の「交流」をテーマに、横浜の持つ独自の文化を紐解いてゆきます。

特別講演会をはじめ、シンポジウム、各時代のスペシャリストたちが語る連続講座、子ども向け体験プログラムなど、多彩な企画をご用意しています。

この夏は、横浜 3 万年の歴史に思いを馳せながら、大人から子どもまで“歴史漬け”の日々を過ごしてみたいはいかがでしょうか。

展示の見どころ

メイン会場である横浜市歴史博物館には、「武蔵国鶴見寺尾郷絵図」(神奈川県立金沢文庫蔵)や「木造釈迦如来立像」2 体(称名寺・真福寺蔵)などをはじめとした重要文化財 **21 点** が集まります。

全施設を巡り展示を観ることで、3 万年にわたる市域の歴史がより理解でき、今までと違う切り口の展示により、興味深い歴史を学ぶことができます。

横浜市歴史博物館【メイン会場】

「横浜のあゆみ—ヒト・モノ・マチ」—横浜の原始から明治時代初年までの歴史をとりあげ、「交流の場」と

しての横浜の姿をⅠ人々が生きた大地、Ⅱ陸の道を使って、Ⅲ海の道が運んだもの、Ⅳ開かれた都市、の四つの章で展示します。また、横浜ユーラシア文化館が担当する「古地図にみるユーラシアと日本」のコーナーを設置し、横浜ユーラシア文化館所蔵の古地図を軸に、ユーラシア世界の様相と日本の位置をさぐります。

横浜開港資料館・横浜都市発展記念館

「ハマを駆ける—クルマが広げた人の交流 明治・大正編」（開港資料館）・「ハマを駆ける—クルマが広げた人の交流 昭和編」（都市発展記念館）—人力車・馬車・自転車・自動車など多様なクルマの歴史をたどりながら、横浜が陸上交通の近代化に果たした役割や、交通手段の発展にともなう都市や社会の変化を紹介します。



本町通り（明治初期）



尾上町通り（昭和45年）

横浜市三殿台考古館

「弥生トレード—横浜の遺跡から見る弥生時代の交流・交易」—三殿台遺跡からの出土品をふまえ、石器・金属器・玉類などに関する弥生時代の人々の交流・交易の一端を紹介します。

埋蔵文化財センター

「よみがえる中世称名寺—“赤橋”の橋脚」—称名寺で発見された鎌倉時代末の橋脚を復元的に展観すると共に、かわらけ・陶磁器などの遺物を紹介します。

横浜市八聖殿郷土資料館

「絹の道—原三溪と富岡製糸場」—生糸生産地と横浜との交流の歴史をパネルで紹介します。

横浜市史資料室

「戦争と戦後をめぐる日本とアメリカ」—戦前・戦後の日本とアメリカの関係を資料とパネルで紹介します。

開催期間 平成27（2015）年7月18日（土）～27年9月23日（水・祝）

休館日 施設により異なります

（歴史博物館・開港資料館・都市発展記念館は月曜。ただし祝日の場合は開館、翌休）

開館時間 歴史博物館・埋文センター・三殿台考古館 9:00～17:00

その他の施設 9:30～17:00（八聖殿郷土資料館は～16:00）

※開港資料館・都市発展記念館は水曜日 19:00 まで開館（9/23 を除く）

観覧料 3館共通入館券 200 円（歴史博物館・開港資料館・都市発展記念館）、高校生以下無料
その他の施設は入館無料

主催：公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 **共催**：横浜市教育委員会

後援：横浜商工会議所／朝日新聞横浜総局／神奈川新聞社／産経新聞社横浜総局／東京新聞横浜支局／毎日新聞横浜支局／日本経済新聞社横浜支局／読売新聞横浜支局／NHK 横浜放送局／TVK

協賛：モザイクモール港北

お問い合わせ先

（公財）横浜市ふるさと歴史財団 総務課 塩川 一 Tel 045-912-7771